

全国の平均正答率と比較して、やや低い結果でした。

①領域別の結果

【数と計算】

この領域の問題は7問でした。正答率は全国よりやや低い結果でした。減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめるとどのようになるかを書く問題は全国より相当低く課題に残りました。

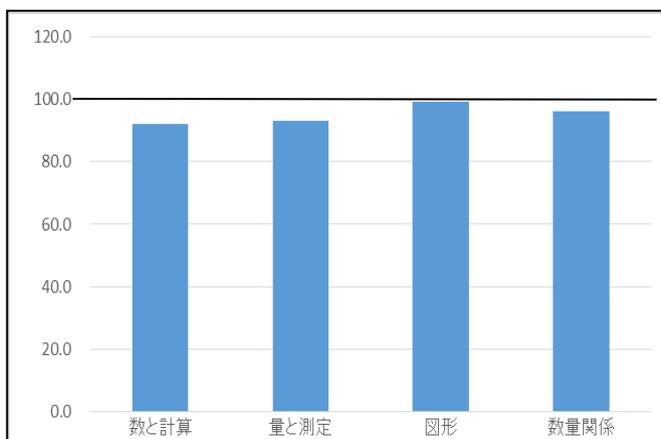
【量と測定】

この領域の問題は、3問でした。正答率は全国よりやや低い結果でした。二つの棒グラフから、一人あたりの水の使用量について分かることを選び、選んだわけを書く問題は全国より相当高い正答率でした。

【図形】

この領域の問題は2問でした。正答率は全国と同様の結果でした。二つの合同な台形を、ずらしたり、回したり、裏返したりして、同じ長さの辺同士を合わせて作ることでできる形を選ぶ問題は全国よりやや低い正答率で課題に残りました。

【平均正答率を100とした指数で4領域の正答率】



【数量関係】

この領域の問題は、7問でした。正答率は全国とほぼ同様（下位）の結果でした。だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ問題は全国より相当低い正答率でした。

【課題のある問題の例】

3

ともやさんは、 $421 - 298$ や $600 - 201$ のようなくり下がりのあるひき算について、次のように計算しやすい式にして考えました。

【ともやさんの計算の仕方】

$$\begin{array}{r} 421 - 298 = \square \\ \downarrow +2 \quad \downarrow +2 \\ 423 - 300 = 123 \end{array} \quad \begin{array}{l} \curvearrowright \\ \text{変わらない} \end{array}$$

だから、 $421 - 298$ の答えの \square は、123です。

$$\begin{array}{r} 600 - 201 = \square \\ \downarrow -1 \quad \downarrow -1 \\ 599 - 200 = 399 \end{array} \quad \begin{array}{l} \curvearrowright \\ \text{変わらない} \end{array}$$

だから、 $600 - 201$ の答えの \square は、399です。



ゆいな

【ともやさんの計算の仕方】を見ると、ひき算では、ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、差は変わらないのですね。

- (1) 【ともやさんの計算の仕方】をもとに、 $350 - 97$ について、計算しやすいようにひく数の97を100にした式で考えます。

$$\begin{array}{r} 350 - 97 = \square \\ \downarrow \quad \downarrow \\ \text{㊦} - 100 = \text{㊩} \end{array} \quad \begin{array}{l} \curvearrowright \\ \text{変わらない} \end{array}$$

だから、 $350 - 97$ の答えの \square は、 ㊩ です。

上の㊦、㊩、㊩に入る数を書きましょう。

ゆいさんは、くり下がりのあるひき算を計算したときにもとにした考えをふり返って、次のようにまとめました。

【ゆいさんがまとめたこと】

ひき算では、
 ひかれる数とひく数に同じ数をたしても、
 ひかれる数とひく数から同じ数をひいても、
 差は変わりません。
 このことを使うと、計算しやすいひき算の式で考えることができます。

ことねさんは、 $400 \div 25$ や $90 \div 18$ のようなわり算についても、計算しやすい式にすることができると思います、下のように考えました。

【ことねさんの計算の仕方】

$$\begin{array}{r} 400 \div 25 = \square \\ \downarrow \times 4 \quad \downarrow \times 4 \\ 1600 \div 100 = 16 \end{array} \quad \left. \begin{array}{l} \curvearrowright \\ \text{変わらない} \end{array} \right\}$$

だから、 $400 \div 25$ の答えの \square は、16 です。

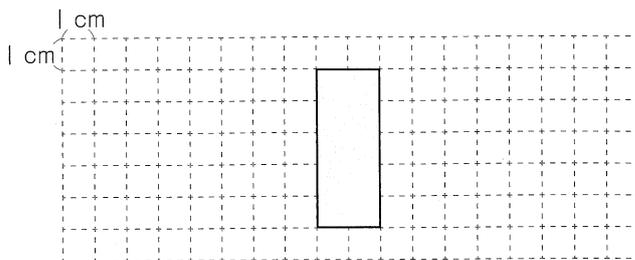
$$\begin{array}{r} 90 \div 18 = \square \\ \downarrow \div 9 \quad \downarrow \div 9 \\ 10 \div 2 = 5 \end{array} \quad \left. \begin{array}{l} \curvearrowright \\ \text{変わらない} \end{array} \right\}$$

だから、 $90 \div 18$ の答えの \square は、5 です。

【正答率の高かった問題の例】

1

下のような長方形の紙 (\square) があります。方眼紙は、1目もり1cmです。



<正答>
2と4

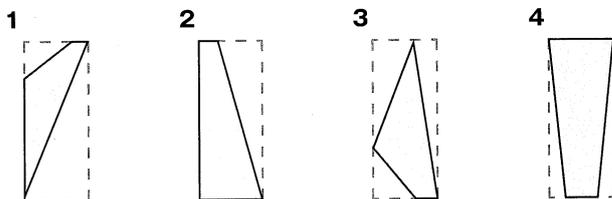
正答率
95.2

無回答率
0.0

(1) ゆうたさんは、上のような長方形の紙を直線で切って、下の 1 から 4 までの図形をつくりました。

下の 1 から 4 までの中で、台形はどれですか。

2つ選んで、その番号を書きましょう。



<指導の成果とこれから>
 台形は対辺が平行であるという図形性質を理解しています。授業での習熟度別学習により、それぞれの実態に応じた図形的活動を多く取り入れているからと考えられます。今後も、習熟度別学習において、実態に応じた算数的活動を多く取り入れていきます。

(2) ひき算について書かれた【ゆいさんがまとめたこと】と同じように、わり算についても、【ことねさんの計算の仕方】をもとにまとめると、どのようになりますか。

下の \square の中に、「わられる数」、「わる数」、「商」の3つの言葉を使って書きましょう。

わり算では、

※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。

このことを使うと、計算しやすいわり算の式で考えることができます。

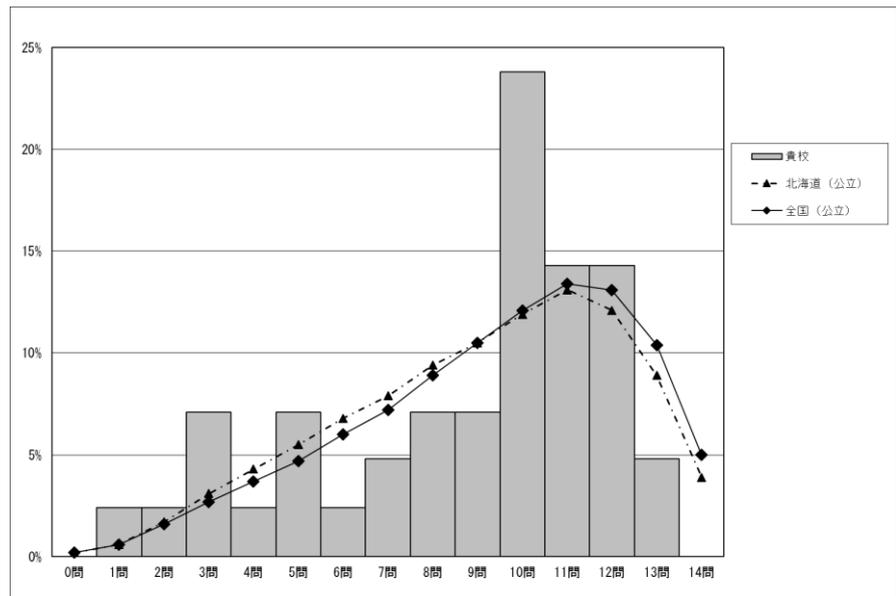
<正答>
 ・わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わりません

正答率
14.3

無解答率
7.1



6問以下の割合は全国より
やや多い結果でした。



【学校では今後このような指導を行います】

高台小全体として、上位層が少なく、下位層が多いという傾向があります。習熟度別学習において、児童の実態に応じた問題に取り組むことにより、思考力を向上させたいと考えています。

また、計算をする際には、その計算が確実にできることに重点を置いてきました。今後は、計算を能率的にするために工夫することができるようにし、式の意味についての理解を深められる指導をしていきます。

さらに、記述式の問題を苦手とする児童が多いです。記述式には、3つのパターンがあります。

(1) 「事実」を記述する問題

- ① 計算の性質、図形の性質や定義、数量の関係の記述
- ② 表やグラフなどから見いだすことができる傾向や特徴の記述

(2) 「方法」を記述する問題

- ① 問題を解決するための自分の考え方や解決方法の記述
- ② 他者の考え方や解決方法を解釈しての記述
- ③ ある場面の解決方法を元に別の場面の解決方法を考えて記述

(3) 「理由」を記述する問題

- ① ある事柄が成り立つことの原因や判断の理由の記述
- ② 「AだからBとなる」のように、Aという理由及びBという結論を明確にして記述
- ③ 理由として取り上げるべき事柄が複数ある場合には、それらを全て取り上げて記述

この3つのパターンを意識して授業に取り組み、言葉や数、式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり他者を説得したりすることができるようにしていきます。